



2023-24 年度  
国際ロータリー会長  
ゴードン R. マッキナリー

# Weekly Report Niigata



2023~24 年度  
新潟ロータリークラブ会長

内山 博之

新潟 RC 9 月第 4 例会 (2023.9.26) (Zoom 例会併催) No.3476

(1) ロータリーソング「それでこそロータリー」斉唱

(2) 内山 博之会長挨拶

皆さん、こんにちは。本日が9月最終例会でありまして、やっと第1クォーター終了であります。まだまだ先は長いですが、気負わずマイペースで、第2クォーターも進めて参りたいと思いますのでお付き合いのほどよろしくお願いいたします。さて、本日であります、会長挨拶のネタの仕入れが間に合わず、少しズルをしようと思いつつながら昨夜 YouTube を見ておりましたら、新潟芸妓の皆さん動画を見つけまして視聴しておりました。ちょうど、本日の会員スピーチもイタリア軒の高野総支配人でありまして、古町とイタリア軒という題目でお話いただくので、マッチするかと思いついて、いつもお世話になっております「新潟古町芸妓」についてお話をさせていただきます。新潟は新潟美人といつて肌のきめが細く色白な女性が多いと言われておりますが、もとは新潟芸妓をそう呼んだのが始まりらしいです。新潟芸妓は江戸時代が始まりで、当時新潟湊は北前船の最大の寄港地として栄え賑わった町でありました。新潟町は、現在の古町近辺で町の中には網の目のように堀が巡り、古町通りの起点となっていた白山神社も信濃川と堀に囲まれていたそうです。両側に柳の並木が植えられている堀が多く、別名「柳都」と呼ばれるのはこのためです。新潟芸妓は最盛期 400 人を超えており、現在も老舗料亭として格式高い行形亭と鍋茶屋などのお座敷で人々をもてなして参りました。幼いころに置屋に入り、見習いをしながら師匠から踊りや三味線、唄を学びます。新潟芸妓の踊りは日本舞踊の市山流であり、日本舞踊の家元としては珍しく地方都市である新潟市に本拠を構えています。このおもてなし文化は、芸妓衆と芸の師匠、料亭があつて初めて成り立つものなのです。芸妓言葉というものがあり

まして、我々もよく聞くのが、お客様の呼び方を「あにさま」「あねさま」といいますが、そのお客様の子供たちがお座敷を利用するような年齢になると「おとつあま」「おっかさま」に変化しまして、その子供たちが「あにさま」「あねさま」になります。さらに、お孫さんがお座敷を利用するようになると、祖父母、父母はそのまま、その孫たちのことを「ちんこあにさま」「ちんこあねさま」と呼ぶらしいです。全国的に芸妓の人数も減少し、料亭文化も衰退の一途を辿っているのですが、新潟は、1987 年に財界からの出資を募り柳都振興が設立され、会社員として芸妓を育成するシステムができたのです。料亭に世話になってきた財界と、料亭の主たちと、現役の芸妓さんたち、この3者が料亭のおもてなし文化を未来に繋いでいこうと協力できたところが上手くいったようです。ベテランの姐さんたちが、新入社員の若い芸妓を育ててくれなければ、柳都振興は育たなかったのでしょうか。本日は、少しお時間ありますので、ライブではありませんが、新潟芸妓の皆さんの舞を見ていただければと思います。私の好きな「四季の新潟」であります。そして、最近新入社員の「かづ葉」と「みすず」さんの2名が加入したということで、そのお披露目会があつたそうです。さすが、新潟財界の重鎮であります高橋秀松さん、しっかりテレビに映っておられました。最後に、私の個人的な押しの「咲也子」とのツーショットを披露させていただきます。

最後笑いのとれたところで、本日の会長挨拶とさせていただきます。有難うございました。

(3) ビジターの紹介

- ・本間 啓介君 (村上 RC)

(4) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(石川 治彦副委員長)

五月女 政義君 本多 晃君

米山奨学会寄付発表(高橋 智則委員)

本間 利夫君 織戸 潔君

石橋 正利君

(5) ニコニコボックス紹介 (加藤 琢巳委員)

・敦井 栄一君 日本海 LNG の江波社長が入会されましたので。

・加藤 琢巳君 本日、初当番として記念にさせていただきます。

(6) 表彰

・小飯田 澄雄さんへマルチプル・ポールハリスフェローピン贈呈

(7) 会員スピーチ

「明治7年～令和5年 古町とイタリア軒」  
イタリア軒 取締役総支配人 高野潤 君

(8) 9月26日の例会参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
85	83	69	83.13

Zoom 参加 14名

次週10月3日は第一例会につき  
卓話はございません。

## コラム

ロータリー情報委員会  
委員長 小山 橋夫

我が新潟ロータリークラブには、日本を代表する企業の支店長・地元企業のオーナーの代表者諸氏が多い。其れは良いとし、クラブや地区の役職に任命されると名刺が支給されます。名刺の構成をみると、殆どがロータリー標章、地区番号、氏名、所属委員会・役職、ロータリー事務所の所在・連絡先、会員の社名(勤務先)などである。勤務先には必ず代表取締役、〇〇支店長などと地位・肩書が書かれている。しかし、ロータリーで大切なものは地位や肩書ではない。その本人がどのような専門職か、どのような職業なのか相手に認知してもらう為の大切な自己紹介ツールです。しかし、社名・勤務先の業種がなんであるか判りません。

例えば、勤務先:イロハ商会とか(株)小山では判断できません。私は、ロータリーの名刺は肩書よりも職種を重視して作るべきだと考えます。

### ロータリー章典 4.020. クラブ会員身分の個人的な性質

クラブにおける会員身分は、個人的な会員であって、個人を雇用する経営組織や法人企業のそれではない(1998年6月理事会会合、決定348号)。出典:規定審議会、80-102

(2023/9/27)

新潟ロータリークラブホームページアドレス  
<http://www.niigatarc.jp/>